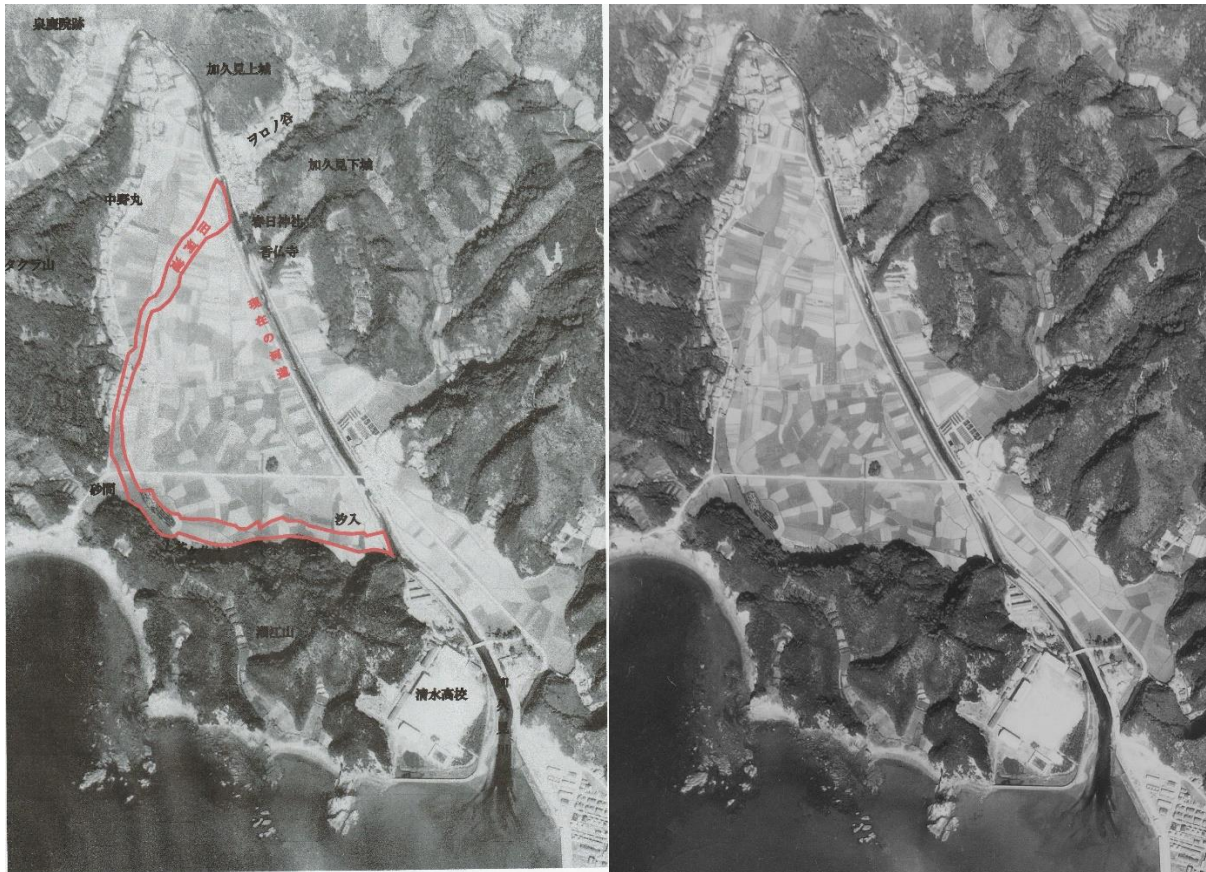


**=市史編さん便り= 【10号】**令和4年5月19日(木)発行.

\*\*\*\*\*土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

## ※昭和30年代頃の市域 ～シリーズ2～

「加久見地区周辺の航空写真(市教育センター所蔵)」から



上の写真は、昭和30年代の加久見地区の航空写真である。この頃の田畑の畔境をよく観察すると旧河道が浮かび上がってくる。江戸時代後期の土佐藩浦奉行・谷真潮の記録した『西浦廻見日記』(1778年)には「養老浦を見みつつ宝山と言坂をこして加久見川有」とある。江戸時代末の時点で西の養老浦から加久見村に入る時、その手前、つまり宝山(たくらやま)の東麓を加久見川が流れていたことを客観的に証明する文書である。山口恵一郎編『日本図誌体系四国』(朝倉書店、1975年)に所収されている明治38年(1905)測量の5万分の1地形図では、既に現在の位置に河身変更されている。このことから、加久見川の現在の河身は、幕末期から明治時代後期にかけての大規模な工事であったと推測できる。

近世以前の加久見川は、鷹取山南麓を稜線に沿って蛇行し、支流であるフロノ川と交差する地点から流路を南西に変えて、そこから宝山東麓を稜線に沿いながら下蛙田(しもかえるた)・寶下(たからした)と流れた。砂間(たいま)から流路を東に変えて潮江山

北麓に沿い上茶ヶ佐古（かみちやがさこ）・下茶ヶ佐古（しもちやがさこ）・汐入（しおいり）と流れ、越浦（こえうら）に注いでいたと思われる。

加久見氏居館調査として当時高知県教育委員会文化財課・弘田主任が平成21年度（2009）に下蛙田で実施した試掘確認調査では、約1メートルの埋土の下は、泥土状の灰白色の粘土層が厚く堆積しており、これは川の淀みで泥炭土の堆積と推測される。潮江山西麓と宝山南麓の間を砂間という小字があり、ここが旧河道の流路が潮江山北麓に沿い東に流路を転換する地点である。ここに川砂が厚く堆積していた場所であろう。また、上茶ヶ佐古・下茶ヶ佐古の「佐古」は、狭く細い谷を意味し、水辺の土地であったことを暗に意味している。汐入は、現在の加久見新町南西部一帯を指し、ここまで満潮時に川に沿って、海水が流入していたことを示す小字名であろう。

【参考文献】田村公利「海の領主‘加久見氏居館周辺の歴史景観—加久見地区学術調査の概要を通じて—」（『土佐史談第261号』土佐史談会、2016年）

## ◎新刊紹介…

山崎圭一著『一度読んだら絶対に忘れない 世界史の教科書【宗教編】』

S Bクリエイティブ株式会社、2022年、全225頁。



著者は長年、高等学校の教育現場で授業実践を行っていた社会科教員である。日頃より生徒に分かりやすい授業実践を心がけ、心を砕いてきた。多くの人に歴史を理解してほしいとYouTubeによる授業配信も試みた。この配信が分かりやすいと口コミで評判となり、受験生や学び直しの大人たちのブームとなった。これが『一度読ん

『だら絶対に忘れない』シリーズの連続発刊につながる事となる。第一弾『世界の教科書』では、各国・地域の権力や政治の流れからその動きを捉えた。続編となる『世界史教科書【経済編】』では、世界史を貨幣や物の動きから捉えた。今回の『世界史の教科書【宗教編】』では、前著二編に続く宗教をテーマに世界史を読み解いていこうとする試みである。これは、イスラエルの歴史学者・ユヴァル＝ノア＝ハラリの著書『サピエンス全史』（柴田裕之訳、河出書房新社）の記述に基づいている。彼は歴史に方向性を与える要素として「帝国・貨幣・宗教」の三要素を挙げている。

本書は、高等学校で学習する世界史や日本史の教科書に登場する宗教の基本事項の要点を取りあげている。宗教に関わる記述は、頻りに教科書に記述はされているが、その性格上、時系列に他の記述とも混在させて記述していかざるを得ないので、記述内容が複雑多岐になりがちで、断片的で分かりにくい記述となってしまう傾向がある。この課題をどのように解決し、歴史のエキスポ部分を整理し、簡潔に表現していけばいいのか著者は悩んだ。結果、宗教ごとに古代から現代までのその歴史概要を系統的に概観していくような解説書を作ろうと思い立ったのである。

「第1章・宗教の起源・古代の宗教」から「第13章・神道」まで全13章構成となっている。これは世界史に登場する宗教を13に絞り、丁寧にピックアップして選択したものである。各章の初めにその宗教の重要語句を短い言葉でまとめ、その宗教の特色がつかめるように示している。下部にその伝播の広がりを分布図や系統図（教義が分化していった流れ図）を記載し、簡潔に布教史が示されている。加えて、各宗教のキーワードを設定し、詳細な年号がなくても、時系列に内容が理解できるよう短い端的な文章で宗教史や事件等の特徴的な出来事となるポイントを解説している。

全13章の中で一番頁数を割いているのがキリスト教に関わる記述である。全記述の約五分の一を占めている。イスラームと仏教が、それぞれ約17%、約14%と続く。これら世界三大宗教を中心にゾロアスター、ユダヤ、マニ、ヒンドゥー、ジャイナ、シク教や東アジアで起こった儒教や道教、日本の神道等についてその教義内容や歴史を整理し、簡潔に分かりやすく解説している。

本書は、大学受験を控える高校生から学び直しを図る社会人、歴史を学ぶ人たちに歴史学習や研究をより深めていくための基本書としてお薦めしたい一書である。歴史研究では、何といたってもそのベーシックとなる基礎力が必要である。これを学習し、歴史を読む力を大いに習得していくことが肝要であると考えます。

#### 【編集後記】

明日、20日は本年度「第1回市史編さん・編集委員会」が開催されます。ここで「令和4年度・土佐清水市史編さんに関わるタイムスケジュール」が発表され、これに基づき、いよいよ市史編さんの後半戦が開始されます。委員の皆様、職務などご多忙のことと存じますが、執筆・編集・校正をよろしくお願いいたします。

大切なことは、提出期限をしっかりと守っていただくことです。くれぐれもよろしくお願いいたします。（田村）